

◎日 時	平成26年5月7日（木）午後2時00分～午後3時00分
◎場 所	北見市役所 北2条仮庁舎 3F 庁議室
◎出席者	会議委員：塚本会長、高橋副会長、山村委員、佐藤（忠）委員、木下委員、 佐藤（浩）委員、広川委員、山内委員、多田委員、松崎委員、戸田委員、 林委員、鈴木委員代理（藤本専門官）、平森委員、西田委員、 香川委員代理（久保主査）、小原委員、佐藤（隆）委員、皆川委員 北海道開発技術センター：芝崎氏 事務局：佐々木企画財政部次長、田中地域振興課長、奥原地域交通担当係長、 横山主任

## 開 会

佐々木次長： 本日は、大変お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本日の会議冒頭の進行を務めさせていただき、企画財政部次長の佐々木と申します。4月1日付けの人事異動により担当することとなりましたので、どうぞよろしくお願いいたします。ただいまから、平成26年度第1回北見市地域公共交通会議を開催いたします。

議題に移る前に各団体の人事異動等に伴いまして、5名の委員の皆様が変わられております。本来市長から委員の皆様にご挨拶をさせていただきたくところですが、他の公務がありますので、塚本副市長からご挨拶をさせていただきます。委員の皆様には、そのまま自席にてお待ちください。

・・・・・・委嘱状交付・・・・・・

佐々木次長： それでは、新たに委員になられた方に自己紹介をお願いしたいと思います。おそれいりませんが、木下委員から、よろしくお願いいたします。

木下委員： 北見北光ハイヤーの木下と申します。北見タクシーの平子社長が旭川に異動となり、代わって私木下が委員となりました。よろしくお願いいたします。

松崎委員： 端野まちづくり協議会からまいりました松崎と申します。以前は端野まちづくり協議会の自治連選出委員が選出されていましたが、いろいろ都合がございまして、新たに端野まちづくり協議会から私が選出されてきました。どうぞよろしくお願いいたします。

林委員： 北見警察署交通課長の林と申します。前任の元嶋課長に代わりまして、本年4月から課長という職に就かせていただきました。前任は釧路で、10年ぶりの北見勤務となります。非常に暖かい気候で、大変喜んでおります。どうぞよろしくお願いいたします。

平森委員： 4月に網走開発建設部北見道路事務所長としてまいりました平森です。前任地は札幌開発局の道路維持課というところで、交通安全対策を担当していました。昭和57年に北見工業大学を卒業しております。30数年振りに北見に戻ってまいりまして、学生の頃にお世話になった北見市に少しでも恩返しできればと思っています。よろしくお願いいたします。

佐藤（隆）委員： 4月1日付で前任の阿部部長が退職になり、私に代わりました。前職は企業局長で、上

下水道業務を担当させていただきました。今後は都市建設部ということで、まちづくり等皆様にご協力やご指導を受けるとお思いますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

佐々木次長： ありがとうございます。次に事務局であります地域振興課職員につきましても異動がございましたので、自己紹介をさせていただきます。

田中課長： 皆さんこんにちは。4月の人事異動で地域振興課長を拝命いたしました田中と申します。前任は端野総合支所総務課で端野まちづくり協議会や統計業務を行ってききました。今後は市民の皆さんが安心して北見市に住み続けられるような公共交通を皆様とともに考えて進めていきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

佐々木次長： それでは、塚本会長からご挨拶をお願ひいたします。

塚本会長： 今日は第1回北見市地域公共交通会議にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。ただ今5名の方に新たに会議に参加していただくということで委嘱状を交付させていただきました。この北見市地域公共交通会議は、市民の足をどう守っていくかということの中で協議しながら、具体的な施策を含めてこれまでも検討してきました。新しい委員の皆様におかれましても、われわれがやろうとしていることについて一日も早くご了解をいただきまして、ご尽力を賜りますようお願い申し上げます。今日は5月7日ということで、大型連休が終わりました。昨今の今頃というのは本当に寒い日が続いておまして、7月中旬くらいまで低気温が続いており、農作業が遅れていました。昨年は連休中も寒くて桜の開花も遅れていたわけですが、今年の場合は本当にどういう訳か、雪の多い冬であったにも関わらず、いっぺんに桜が咲いてしまうような気温上昇でした。気象庁の担当者も、気温が上昇することに対して、なぜだかわからないというコメントも聞いたところ。皆様方におかれましても、ゴールデンウィークは家族のため、職域のためにご尽力を賜っていただきましたことを含めて御礼を申し上げたいと思います。

レジューメにもございますようにこの公共交通会議の中で、これまでも夕陽ヶ丘線や川東・若松地域のわかバスというものを昨年までに運行していただいております。それぞれ、これまでにあった路線よりは利用者が増えてまいりまして、市民の足として定着しているのではないかと思います。そういう意味ではこの後のご報告、さらには地域の足を守るにはどうすればよいのかなということを引き続きご議論いただきますようお願い申し上げます。いずれにいたしましても、26年度がスタートいたしました。また新たな気持ちでこの公共交通会議を運営してまいりますので、どうぞ委員の皆様におかれましては、いろいろのご意見、お知恵をいただきますよう心からお願ひを申し上げます。一言ご挨拶とさせていただきます。どうぞ宜しくお願ひいたします。

佐々木次長： それではこれからは塚本会長に進行をお願ひすることといたします。

塚本会長： それでは、レジューメにしたがいまして私の方で進めさせていただきます。会議の成立について事務局からお願ひします。

田中課長： 本日の出席委員数は、21名中、19名であります。北見市地域公共交通会議設置要綱第6条第2項の規定に基づき、半数以上の出席がありますので、本日の会議が成立いたしますことをご報告申し上げます。

なお、常呂まちづくり協議会江田委員、学校教育部の志賀委員については、欠席する旨の連絡を受けております。また、北海道運輸局北見運輸支局の鈴木委員が公務のため欠席とい

うことで、代理として藤本専門官にオホーツク総合振興局地域政策課の香川委員が公務のため欠席ということで、代理として久保主査に出席いただいておりますことをご報告申し上げます。

塚本会長 : ありがとうございます、会議が成立している旨事務局から報告いただきました。

#### 報告事項(1)公共交通利用促進について

塚本会長 : それでは、報告事項(1)公共交通利用促進についてということで、事務局から説明をいただきたいと思えます

奥原係長 : 事務局を担当しております、地域交通担当の奥原と申します、よろしくお願いたします。

当市では、平成23年度に策定した北見市地域公共交通計画のアクションプランに基づく公共交通の利用促進策の一つとして、夕陽ヶ丘線を対象に利用促進策を実施したところであります。調査結果等につきましては、委託業者であります、社団法人北海道開発技術センターの芝崎氏より報告させていただきます。

芝崎氏 : ただ今ご紹介にあずかりました、北海道開発技術センターの芝崎でございます。昨年度、この業務を担当させていただきました、私のほうから結果についてご説明させていただきます。

皆様のお手元に資料1「公共交通利用促進について～夕陽ヶ丘線の利用促進策の効果検証について～」をお配りさせていただいております。かいつまんでご説明させていただきます。

2ページ目に夕陽ヶ丘線の現況、実施概要を記載させていただいております。初めて委員になられた方もおりますので、夕陽ヶ丘線の概要について触れさせていただきます。対象路線として、平成23年に本格運行が開始いたしました夕陽ヶ丘線に利用促進を図ったところでは、内容といたしましては、コミュニケーション型のアンケートというものを実施しまして、利用者の方にコミュニケーションを図って、利用促進を図る目的で実施しております。夕陽ヶ丘線自体は、運行キロが21.4キロ、便数が13.9、始発が7時、終発が18時20分となっています。平均乗車密度が6.6となっていて、利用促進を図って少しでも多くの方に利用していただくという目的で実施しています。調査実施主体が北見市となっており、調査共同機関といたしまして、高橋副会長の研究室であります、北見工業大学社会環境工学科都市・交通計画研究室にご協力をいただきました。

3ページ目をご覧ください。今回、2種類の調査をさせていただきました。①が居住者を対象とした利用促進ということで、過年度において利用者が少ないバス停の周囲の住宅ポストにアンケート票などを配布しましてコミュニケーションを図ったところでは、実施日が12月12・13日で、北見工業大学の学生に協力をいただきまして、1,475世帯に配布しました。配布箇所が、地図中の赤、オレンジの丸のところに配布したところでは、左下のところに一覧で配布した世帯数が記載されています。もう1つが、施設利用者を対象とした利用促進策ということで、イオン北見店を訪れたお客様に対して、12月14日、15日に調査票を配布いたしました。

4ページ目には、配布したツールの一覧があります。①がコミュニケーションアンケート、②が夕陽ヶ丘線お買い物バスマップとなっています。これは、路線沿線の商業施設を記載しております。③は動機付け冊子で、健康や環境に関する意識付けをするような冊子、④とし

て昨年3月に作りました交通マップです。返信用封筒をつけて各世帯や施設に訪れた人へ配布をしました。

5ページ目からは、アンケートの結果となっています。配布数が、世帯への配布と施設利用者への配布を合わせて2,000部となっていて、回収数が459で回収率が22.9%となっています。回収された方の性別ですが、男性は44.7%、女性が55.1%ということで、女性のほうが若干多くなっています。2番の年齢については70代が多くて、次に60代、50代となっています。住所については、三楽町からの返信が多かったです。

6ページ目ですが、就業、職業の状況については、無職の方が一番多く30.1%、次に会社員、公務員の方が25.3%となっています。世帯構成は、夫婦が最も多くて、次に親子、単身となっています。保有する免許証については、約8割の方が自動二輪を含む普通免許を保有しているとなっています。世帯数の自動車保有状況ですが、世帯に1台ありますというのが約半数、2台持っているというのが3割となっています。自分専用、家族共用で車を持っているかについては、どちらも4割程度の方が保有しています。8番の、何歳くらいまで運転しようと思いませんかという質問については、一番多いのが80歳以上が最も多く、次に70～74歳という回答でした。

7ページ目からは過去2週間におけるバスの利用状況、クルマの利用状況をお聞きしています。アンケートで効果検証を測るときに事後アンケートというものを実施していき、それで比較をするために回答していただきました。簡単にご紹介させていただきますと、バスの利用状況においては、0日、利用していませんという方が63.2%で最も多くなっています。10番のタクシーについても0日、283人66.6%の方が利用していませんでした。11番のクルマの利用状況については、13～15日未満が最も多く、過去2週間なのでほぼ毎日使われているという方が多かったです。クルマの利用目的については買物が多く、次に通院、通学となっています。

8ページ目が過去3日間におけるクルマでの片道5分以内の移動回数です。短いちょっとした買物などでどれだけクルマを使っているかをお聞きしたものです。0回が174人となっていますが、1から3回未満が22.3%、3～5回未満が57人で13.8%となっています。短い移動については、比較的クルマを利用していないという状況です。14番目は普段のクルマ利用についてで、普段何分程度クルマを利用するか、を聞いています。平日は30～40分未満が25%、次に10～20分が多かったです。休日については30～40分が24.0%で、次に1時間から2時間未満が21.9%で、長距離で車を利用されている状況です。

9ページ目が夕陽ヶ丘線の利用状況です。76.0%の方が利用していない、となっており、利用している方はおよそ20%です。また、夕陽ヶ丘線沿線に行きたい場所がありますかということについては、約半数の方が「ある」と回答されています。行きたい場所については、イオン北見店が最も多く125件、そのほかコーチャンフォーやコープさっぽろなどが続いている状況です。

10ページ目が夕陽ヶ丘線を利用する場合の自宅近くのバス停です。三楽町に配布した数が多かったので、バス停の青葉通と三楽町が多くなっています。目的地については、先ほどのニーズと同様、イオン北見店のバス停を利用したいという回答が多かったです。

11ページ目は、夕陽ヶ丘線を利用した具体的な行動プランの記入ということで、実際に夕陽ヶ丘線を利用して移動するのであれば、どういうプランで移動しますかという質問でした。それぞれプランを立ててもらっています。その中で、記入が無かったということで、具体的な行動を考えていただけなかったという方が73.7%、記入があったのが25%ほどで110人くらいの方でした。具体的な行動を考えてご回答いただいたところです。記入のあった方に対して、そのプランについて実行しようと思えますかという回答は、思うが12.7%、少し思うが23.3%ということでした。人数的に言うと、110に対しての35%程度なので、40人くらいの方が実際のプランにもとづいて移動しようと思う、と回答いただきました。下の記入例ですが、実際にご記入いただいた方の行動プランの内容となっています。

12ページ目が、交通に関する意識ということで、クルマを控えることは難しいと思えますか、環境に優しい移動を心がけようと思えますか、などの内容をお聞きしております。ご回答いただいた内容では、できるだけ安全な移動を心がけようと思うという回答が53.8%、ややそう思うというのが34.6%となっています。およそ90%近くの方が思う、となっています。

13ページ目はアンケートの自由意見です。一部抜粋ですが、内容としましては、バスの最終便が早い時間に終わってしまいますという意見がありました。また、交通マップなどが凄く便利です、夕陽ヶ丘線ができてすごく便利になったという意見もございました。一方で、乗り継ぎの時間が合わない、などというご回答もいただきました。23番は、事前アンケートということで、12月に実施したアンケートで、3月の事後アンケートにご協力いただけますかという質問を設けました。34.2%の方に「はい」という回答をいただきまして、157の方に事後アンケートを実施して効果を検証しました。

14ページ目は事後アンケートです。こちらが平成26年3月3日から14日までの間に実施しました。同じように返信用封筒をつけまして、A4両面のアンケートをお送りしました。

15ページ目からは事後アンケートの結果です。157部配布しまして87部回収し、回収率は55.4%となりました。性別では、男性が58.6%、女性が41.4%で、男性のほうが多かったです。年齢別だと70代がもっとも多く、次いで60代、50代という結果でした。住所は、返信いただいた方の住所でございます。最も多いのが三楽町で、35部配布して13部返信していただきました。あとは、並木町、柏陽町、文京町、東陵町から10部ずつの返信をいただきました。

16ページは過去2週間におけるバスの利用状況です。同じように事前事後比較するようにお聞きしています。ここは一つずつ見ても事前、事後の変化がわからないものですから、ここは後でまとめてご説明いたします。

19ページの事後アンケートについては、夕陽ヶ丘線のお買い物バスマップが役に立ったかということについてもお聞きしました。お買い物バスマップについては、役に立ったが25.3%、やや役に立ったが26.4%となっており、約半数の方が役に立ったとご回答いただきました。主な意見といたしましては、参考になりましたというご回答のほか、いつも行っている場所なので、使わなくてもわかりますという回答もありました。

20ページ目ですが、先ほど言った環境や交通安全、健康という切り口で交通に関する意識を持ってもらうための冊子を導入したものです。こちらについては、役に立ったが11.5%、やや役に立ったが24.1%ということで、35%の方が役に立ったと応えています。自由意見としましては、環境などに与える影響が少しわかりました、クルマに係る費用や税金がこんなにかかるということを再認識いたしました。必要ではなかった、あえて読む必要がなかったというご回答もいただきました。あと、もう少し魅力に富む形にしてくれば良いのではという意見もいただきました。

21ページ目は、北見交通マップについてです。役に立ったが21.8%、やや役に立ったが32.2%となっています。こちら半数の方が役に立ったということで評価をいただいております。意見としましては、付近に通る道を確認できました、少し見辛かったという意見などがありました。あと、運行状況が網羅していて理解できる、常に携帯しているという意見がありました。また、バス路線やバスの番号を調べるのに役に立っているという意見があります。市街地にバス路線が多かったので、少しそのあたりが見つらいのでわかりやすく記載してほしいという意見もありました。あと、市外地の路線図や目的地別の行き方ガイドを記載していただき、そちらが役に立ったというお話もありました。

22ページ目が、事前アンケートと同じような、交通に関する意識をお聞きしたものです。安全な移動について、とても高い意識を持っていることがわかりました。これも比較したものがありませんので、後で説明させていただきます。

23ページからは、事後アンケートの全体に関する自由意見を掲載しています。バス路線の充実を図ってほしい、主婦としては一番乗りたい10時台のバスがないのが残念ですという回答がありました。

26ページ目からは、事前、事後の効果検証を測ったものです。まず1点目、実際に利用している人数がどう変化したかということです。こちらは北見バスさんにご協力いただきまして、バスの出入り口に付いているセンサーによりカウントした人数を比較したものです。12月20日から3月31日までの間で、2012年と13年のデータと今回調査を実施した機関で比較しています。以前が12月であれば6,618人に対して、今回は6,422人ということで、-3.1%となっています。1月についても、16,939人に対して15,869人で-6.7%、2月は若干増えて4.3%となっています。3月は-3.0%で減少傾向です。総じて前年度から今回の調査期間では、-2.1%減少傾向であったところです。下の表が、バス停ごとに分けたデータです。今回はバス停を限定して利用促進を図ったところですので、それを比較しました。今回の配布エリアを水色にしました。修覚寺については254人に対して282人で9.9%増えて、日赤看護については635人から639人となっています。聖徳寺については1,635人から1,201人となって、-36.1%、学園団地は867人から782人で-10.9%となっています。児童相談所は1,522人から1,596人で4.6%増えました。青葉通は1,452人から1,416人の-2.5%、三楽町はどのバス停よりも最も人数が増えて、1,164人から1,593人となり、26.9%の増加となりました。実際に配布したのも330で、コミュニケーションを図った人数も多いということから、バスの利用者についてもこのバス停は増えました。イオン北見店についても、施設の利用者に配布したところ、7,336人から7,56

5人で3.0%増えています。

今回コミュニケーションを図ったバス停とそうではないバス停とで、これだけ利用の変化がありました。コミュニケーションを図ったバス停については14,865名に対して、15,074人ということで、1.4%増加しました。それ以外については、41,172人から39,828人ということで、3.4%の減少傾向にあったということです。

28ページ目が、事前事後のアンケート結果の比較です。例えば、過去2週間におけるバスの利用頻度ということですが、事前の平均値が1.54日であったのが、事後では3.00日ということで、1.54日から3.00日に増えたことがわかります。タクシーの利用回数も0.69日から1.16日、クルマの利用頻度は8.59日から7.42日に減少しました。過去3日間におけるクルマの利用回数は2.55回から1.94回に減っています。平日のクルマの利用時間も37.9分から29.8分に減っており、休日についても43.7分から36.3分に減少しています。評価については、統計上、信頼がおけるところは、◎、○という評価をしています。

29ページ目については、クルマに頼らないライフスタイルを目指そうと思いますかという心理的な評価についてです。こちらについても、1が「全く思わない」で、5が「とても思う」ということで、数字が大きくなると良い結果だとご理解ください。概ね全ての回答でプラスの評価を得ています。

以上、公共交通利用促進、夕陽ヶ丘線の利用促進策効果検証についてご説明いたしました。

塚本会長 : ありがとうございます。昨年12月12日から15日まででそれぞれ行った調査の結果を報告いただきました。皆さんはこれをご覧になって、何かございましたらご発言願います。

夕陽ヶ丘線については、昨年よりは利用客が減ったということでしょうか。

芝崎氏 : 乗降のデータでは、若干減っている傾向にはあります。

塚本会長 : ただ、意識として、バスに乗ろうという意識は高まったということですか。

芝崎氏 : そうです、今回コミュニケーションを図ったバス停については若干利用者数が増えたということになります。

芝崎氏 : それでは、このような報告があったということによろしいですか。(はい) それでは、報告事項のもう一つ、ニュースレター第2号の発行についてお願いいたします。

奥原係長 : 資料2をご覧いただきたいと思います。ニュースレター第2号につきましては、4月号の広報に折り込み、全戸配布させていただいたところであります。内容等につきましては、前回の会議で説明させていただきました内容から、スペースの関係で若干、変更させていただいておりますが、表面には、北見市地域公共交通会議についてと公共交通の利用促進策として出前講座の活用について、また、裏面には、1月27日に開催されたきたみ公共交通セミナーの開催報告ということで掲載しております。平成26年度も2回の発行を予定しておりますが、交通会議の幹事会で検討いただくなど、内容等につきましても十分検討しながら作成してまいりたいと考えているところです。以上でございます。

塚本会長 : ありがとうございます。既に各家庭に配布されていますが、今年度も2回発行する予定になっていますので、よろしく願います。

塚本会長 : 続きまして、(2) 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価について事務局から説明をお願いします。

奥原係長 : お手元の資料3、地域公共交通確保維持改善事業・事業評価についてをご覧くださいと思います。北見市では、市内バス路線の夕陽ヶ丘線と川東・若松地域のコミュニティバスが対象となりますが、生活交通ネットワーク計画、北見市では地域内フィーダー系統確保維持計画になりますが、位置づけられた補助対象事業については、より効果的・効率的に推進するため毎年度評価を実施することとなっております。現行の評価手順についてであります。6月末までに交通会議の承認を経て、地域内フィーダー系統確保維持計画を策定、運輸局に提出後、10月から事業の開始となります。バスの事業年度については、10月から翌年9月までとなっておりますので、年度途中の、4月末までに交通会議による一次評価を行った後、地方運輸局に報告し、5月末までには、交通会議から提出された評価をもとに地方運輸局による二次評価が行われます。評価の結果につきましては、交通会議に対し通知され、必要に応じて事業計画の見直しなどを求めるとされており、交通会議は、評価結果を踏まえ必要に応じて地域内フィーダー系統確保維持計画に反映させるという手順で、これまで評価を実施してきたところです。

平成25年1月、国土交通省では、外部有識者等からなる地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価のあり方検討会を設置し、評価制度の見直しを行ったところであります。今般の改正趣旨として、事業年度の途中での評価となるため、事業年度全体の実績を踏まえたものとなっていない、また、5月に二次評価の結果を受けてから、翌月6月末までに申請する次年度のネットワーク計画に反映させることが事実上困難であるなどの理由により、評価制度の見直しが行われたところであります。

論点といたしましては、二次評価の結果をネットワーク計画に適切に反映できる制度とすべき、従来の制度では、二次評価の結果を6月末までに申請する計画への反映は事実上困難ではないかという声がありました。また、継続して実施する事業であることから、事業年度全体の実績を踏まえた上で評価を実施すべき。などの意見が交わされ、見直すこととなったところです。

見直しの内容ですが、一次評価については、従来の4月末までに行っていたものを1月末までに、また、二次評価につきましては、5月末までに行っていたものを2月末までにとなったところです。変更後の手順ですが、10月から9月まで事業を行い、その後に一次評価及び二次評価を行い、6月末に提出する地域内フィーダー系統確保維持計画に反映するものです。

北見市地域公共交通会議での具体的な取扱いですが、平成25年度事業、24年10月から25年9月までの分については、昨年、一次評価及び二次評価を終了していることから新たな評価は実施しません。

次に平成26年度事業、25年10月から26年9月までの分については、27年1月末までに交通会議で一次評価を行うこととなりますのでよろしくお願いいたします。以上でございます。

塚本会長 : 今報告させていただいた内容をおわかりでしょうか。交通事業者の年度が10月からスタートして、9月で終わるという考え方の中で、4月―3月の年度で一次評価、二次評価を入



れこんでいったのですが、結局交通事業者の年度の違いがあって、なかなか評価の時期が合わないことから、下にあるような方法で進めていきたいという考え方でございます。そうすることによって、交通事業者のほうで運行していただけることに対して、年度内で考えを反映できるだろうということでございます。特に一番最後に書いてありますようにこれからの予定として、平成26年度事業として、平成25年10月から26年9月に運行しているわかバス、夕陽ヶ丘線の評価につきまして、平成27年1月に一次評価、2月に二次評価を行いたいという考え方です。平成27年度事業はどうするのですか。

奥原係長 : 平成27年度事業は平成28年1月に評価を行います。

多田委員 : 評価をする時期を早めたということですか。

奥原係長 : いえ、遅くなったということです。

塚本会長 : 今までは一次評価が4月末までだったのですが、今後は次の年の1月末までに行います。二次評価は5月末までにやらなければならなかったのですが、今後は次の年の2月までに行うことになりました。バスの事業年度が10月から始まって、9月末に終わるものなので、その運行が終わって数字を確定してから、1月に一次評価、2月に二次評価をやってもらうことで、前の年の9月から翌年10月まで運行した実績が全て反映されるということです。よろしいですか。(はい)

#### 協議事項(1)平成26年度公共交通利用促進について

塚本会長 : それでは協議事項、平成26年度公共交通利用促進についてということで事務局から提案させていただきますと思います。

奥原係長 : それでは資料4により説明させていただきます。2ページをお開きいただきたいと思いません。平成26年度につきましても、平成25年度と同様に公共交通の利用促進に取り組んでまいりたいと考えています。まず一つ目の取組みといたしましては、川東・若松コミュニティバス、わかバスの検証でございます。内容としましては、利用状況を整理し、利用者および地域住民の要望をアンケートにて把握いたしまして、調査結果を地域にフィードバックいたします。その後、運行時間の変更などはなかなか難しいところですが、必要に応じて見直しなどを行うものです。

2つ目といたしまして、子ども等を対象とした、利用促進の実施です。こちらは現在ニュースレターで出前講座を紹介させていただきましたが、交通すごろくなどを使って公共交通に関する授業を実施するなど、利用促進策を展開したいと思います。こちらにつきましては、これから学校などと調整し連携を図りながら行いたいと考えています。

3つ目といたしまして、特定路線利用促進策の実施でございます。先ほど報告をさせていただきましたが、夕陽ヶ丘線の利用促進策に引き続き、特定路線の沿線に居住する住民や施設利用者を対象とした利用促進策を展開するものです。2番目にご説明いたしました、子ども等を対象とした利用促進策との連携を含めて検討していきたいと考えています。2番目の子ども等を対象とした利用促進策の実施、3番目の特定路線利用促進策の実施につきましては、北見市公共交通会議の幹事会等にて検討することとさせていただきますので、宜しくお願いします。以上でございます。

塚本会長 : 今年度の利用促進策として、こういうアンケート調査を行いながら、わかバスの利用状

況を把握いたしまして、一方で利用促進策として出前講座でみんなと宅配便を利用して、子どもたちにも公共交通について学んでいこうということでした。これについて、ご意見をいただきたいと思います。

多田委員 : この交通すごろくというのは、イラストを見ると温根湯からスタートして常呂がゴールしていますが、子どもたちに何を教えようとしているのでしょうか。

芝崎氏 : 交通すごろくですが、車とバスのカードがあり、みんなでそれぞれ一斉にどちらかを出していただくのですが、車のカードは出した人が少なければ多く進めるのですが、出した人が多いとあまりコマが進めないというルールになっています。一方、バスのカードは一定のマスを常に進めるようにしており、車利用とバス利用のバランスを考えるようになっています。

多田委員 : このゲームをやることで、公共交通の便利を学んでいただくということですか。

芝崎氏 : バランスよく使うことが大事だということをお話させていただきます。

・・・・・・実物を使って説明・・・・・・

塚本会長 : では、このようなものを使いながら公共交通のあり方を勉強していただくということですか。子どもたちには楽しみながら公共交通を学んでいただくことを進めていただきます。そのほか、アンケート調査を行ったりして、地域にお住まいの方の意見も聞いていきます。いかがでしょうか、平成26年度はこのように事業を行っていくということによろしいですか。とにかく、わかバスに乗っていただくための策を考えていかなければなりません。

戸田委員 : わかバスについてはテレビや新聞にもっとPRすれば、もっと地域の住民が利用使用しやすくなると思います。山の水族館が22か月で50万人に達しました。これも、テレビや新聞の影響だともいますが、まだまだ下り坂にはならないかと思います。僕らもまちづくり協議会の中で、昇り調子のときに次の打開策を考えなければなりません。こういったバス事業も同じだと思います。ただ新たに運行したということをお報や伝書鳩に載せるだけでは効果が少ないと思います。テレビ局や新聞社を有効利用すれば効果も違うと思います。

塚本会長 : ありがとうございます。記者席に北海道新聞の記者さんが座っていますので、このことはお書きいただければありがたいところです。このようなことを進めていくことによろしいですか。(はい)

#### その他(1) 次回の開催日程について

塚本会長 : それでは、次回の開催日程について事務局よりお願いいたします。

田中課長 : すべての協議事項に対しましてご承認いただきましてありがとうございます。次回、第2回目の交通会議であります。6月11日(水)午後2時からを予定しております。案件につきましては、例年ご協議いただいております夕陽ヶ丘線及び川東・若松地域を運行しておりますコミュニティバスの地域内フィーダー計画等を予定しております。ご案内につきましては、改めて送付させていただきますのでよろしくお願い申し上げます。以上でございます。

塚本会長 : 次回の開催日程についてお話をいたしました。今日提案させていただきました議案につきましては全て終わりましたが、何か皆様からございますか。(なし)

それでは以上をもちまして、平成26年度第1回北見市地域公共交通会議を終了いたします。

す。今年の1月27日に公共交通セミナーを開催し、若菜先生に来ていただきましてお話をいただきました。また、高橋先生にも講演をいただきまして、ありがとうございました。その結果、この地域における公共交通が、もっと利用しやすく、また、皆様にも利用して抱けるようになれば、環境に優しい北見市を作っていけるのではないかと思います。この公共交通会議の役割を皆様にご理解いただき、公共交通が発展することを心から願いながら、今日の会議を終わらせていただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。(15:00)